

令和7年度 学校経営の方針・重点の補足事項

1 学校教育目標

～夢・チャレンジ・実現～

希望に向かって挑戦する 明るく力強く生きる生徒を育てる

校訓 ・健康 ・誠実 ・努力 ・創造

(1) 本校がめざす学校像

ア 生徒一人一人の自立に向けて生徒の力を高める学校

○生徒一人一人が社会の変化に対応し、生き抜く力を身に付けるよう、キャリア教育の推進を図る。

イ 地域とともに学び、積極的に社会参加、社会貢献に取り組む学校

○生徒一人一人が主体性と責任感をもって地域に参画できるよう、社会で生きる力を育む。

ウ 家庭や地域と連携・協働し、生徒の学びを支え、豊かな人間性を育てる学校

○生徒一人一人にとって安心・安全な学校となるよう、家庭や地域と連携・協働し、生徒の学びを支えとともに、思いやりのある心や、感謝、感動する心を育てる。

(2) 本校がめざす生徒像

ア 健康:心身ともに健康な生徒

○学ぶ(働く)意欲、学ぶ(働く)喜びの土台となる健やかな心身を育てる。

イ 誠実:まじめで広い心をもつ生徒

○他者を理解し、互いに尊重し合い、相手を思いやる心を育てる。

ウ 努力:最後まで頑張る生徒

○目標に向かって意欲的・継続的に取り組む態度を育てる。

エ 創造:自分で考える生徒

○知識及び技能を習得し、体験・経験・試行を振り返り、主体的に自己選択・自己決定できる力を育てる。

(3) 本校がめざす教職員像

ア 生徒一人一人の人格と個性を尊重し、特別支援教育の専門性を生かして、適切な指導と必要な支援に努める教職員

○生徒一人一人を大切にし、生徒理解に努め、適切な生徒指導(学習指導、生活指導、進路指導)に努めるとともに、適時に必要な支援を行うよう努める。

イ 生徒や保護者、地域から学び、自己を磨く教職員

○既存の概念にとらわれず、生徒、保護者、地域などの声に耳を傾けるとともに、個々の専門性を高めるための研修に努める。

ウ 同僚性を高め、支え合い、学び合う教職員

○学校づくりを担う一員としての自覚をもち、相手を敬い、相手の立場を考え、互いに支え合い、謙虚に学び合うことを大切にし、組織的・協働的な課題解決に努める。

2 教育方針

(1) 生徒一人一人が「分かる授業」を通して「確かな学力」と「自立に必要な力」を身に付けることができるよう努める。

○的確な実態把握の基、生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」、「個別の生活指導計画」の作成、活用を図る。

○生徒が「確かな学力」を身に付けるために、学年間、教科間のつながりを意識し、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成をめざしたカリキュラム・マネジメントの充実を図る。

○生徒一人一人の「見え方」、「聞こえ方」、「感じ方」、「知り方」、「学び方」などを理解、共有し、生徒が「分かる」喜びを感じながら次への期待と意欲をもつことができるような授業を計画、実施する。

(2) 適切な評価に基づき、生徒自身が自己の成長を確かめ、自分らしい生き方の実現をめざして、主体的に学習活動ができるよう努める。

- 日々の授業や教育実践を多角的な視点で適切に評価し、次時の授業や学習活動の改善や充実を図る。
- 生徒自身が自分の学びを振り返り、達成感や成就感をもって、次の学びへの期待や意欲の喚起できるような評価の活用を図る。

(3) 積極的な社会参加や社会貢献を通し、主体的に社会で生活するために必要な「生きる力」の育成に努める。

- 現場実習や地域資源を生かした活動などを通して、積極的に社会参加を図り、生徒の卒業後の社会自立に向けた課題を見付け、その解決に努める。
- ボランティア活動を通して、社会貢献の大切さや相手に喜ばれる嬉しさを感じるとともに、地域や人への感謝の気持ちを学ぶ機会とする。

(4) 生徒一人一人の人格と個性(＝特性)を尊重し、思いやりのある豊かな人間性を育む教育活動を進める。

- 青年期にある生徒一人一人の人格や誇りを尊重し、個性を大切にし、それぞれの良さを伸ばし、互いに認め合う心の涵養に努める。
- いじめや体罰の防止に向けて、日頃から言語環境を整備し、教職員が生徒の良き手本となる言動を心掛ける。
- 挨拶、感謝、笑顔、相談を大切にし、相手を思いやる心の涵養に努める。

3 経営方針

(1) 教職員一人一人が、互いの信頼と協力の基、学校経営に積極的に参画する学校づくりを進める。

- 日頃から教職員一人一人が、学校経営方針を理解し、学校教育目標達成のために、学校経営に積極的に参画する意識をもつ。(日常の業務が学校教育目標の達成につながることを意識)
- 相手の良さを認め、情報を共有し、互いの信頼を基に、学校づくりを進める。
- 業務の分担や協力を心掛け、健康で明るい職場づくりをめざす。
- 管理職は、教職員の言葉に耳を傾け、多方面の意見を参考にしながら学校運営に当たる。

(2) 教職員一人一人の専門性の向上を図り、学校の教育力を高めるとともに、特別支援教育のセンター的役割を果たす。

- 現状に満足せず、互いに磨き合い、支え合う研修に努め、教職員一人一人の専門性の向上を図る。(研修会への積極的な参加、情報収集、情報共有、ミニ研修会など)
- 日頃から互いに授業を参観し合い、建設的な意見を交換し、それぞれの指導力の向上を図り、学校全体の教育力を高める。
- 保護者や地域、関係機関と連携し、特別支援教育の専門性を生かして、地域のセンター的役割を遂行する。

(3) 生徒一人一人が学びやすく、生活しやすい、安全・安心な教育環境の整備・充実を図る。

- 生徒の個性(＝特性)を考慮した学びやすい学習環境と、健康安全な生活環境の整備に努める。
- 清潔で安全な校舎(寄宿舍)の整備に努めるとともに、見やすく適切な掲示物や使いやすく整頓された教材・教具・生活用具の配置に努める。
- 節電、節水、節紙などの徹底と、エコ教育の充実を図る。
- 教職員が生徒への効果的な教育活動を行うために、業務の削減や改善など、働き方改革の推進に努める。

(4) 家庭や地域、関係機関との連携を密にするとともに、積極的な情報発信に努める。

- 家庭や地域の声に耳を傾ける意識をもち、外部評価を適切に活用し、学校づくりに生かす。

- 積極的に地域等に教育活動をアピールし、本校への一層の理解と啓発に努める。
- コミュニティスクールの活用を図り、関係者の意見を基に地域と連携した教育活動の推進に努める。

(5) 教育公務員としての自覚をもち、服務規律の遵守に努める。

- 教育公務員としての自覚と責任の下、法令を遵守し、服務規律を保持する。
- 飲酒運転根絶をめざすとともに、体罰やハラスメントを排除する。

4 本年度の重点

『生徒一人一人が 生き生きと輝き 挨拶と感謝と笑顔があふれる 学校づくり』

(1) 指導の重点

ア 生徒が主語の授業づくり

- 生徒一人一人が「分かる」「できる」「期待がもてる」授業づくり
- 「生徒が何を学んだか」という生徒主体の授業づくり
- 生徒一人一人の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び
- ICT機器の有効活用

イ 「考え」「判断し」「実践する」力の育成

- 身に付けた知識・技能を基に、「考え」「判断する」力の育成
- 自ら「考え」「判断し」、「実践する」力の育成
- 生徒一人一人に応じた「伝える」力(コミュニケーション能力)の向上
- 教職員からの挨拶と感謝の言葉で深める信頼関係

ウ 自分や相手を思いやる心の涵養

- 自分の心や体を大切にするとともに、相談できる力の育成
- 相手と自分の違いや相手の気持ちを考え、大切にすることの育成
- 相手を尊重するとともに、感謝の気持ちを伝えるコミュニケーション能力の向上

(2) 経営の重点

ア 情報共有と連携の強化(報告・相談・確認)

- 必要な情報を適時に伝え、共有する
- 共有された情報を基に、それぞれの立場で考え、相談し、実践する。
- 確認、評価し、次の取組を検討する。
- 感謝の言葉で深まる職員同士の信頼関係。

イ 同僚性と協働性に基づく業務推進

- 互いの立場を考え、尊重し、共に生徒の成長に向けて働く同僚性
- 互いに支え合い、協力し合う協働性
- 心理的安全性が高い組織を目指す。
 - ※心理的安全性とは、組織やチームの成果に向けた、率直な意見、素朴な質問、違和感の指摘が、いつでも、誰もが気兼ねなく言えること
 - ※心理的安全性が高い組織とは、間違いを認めたり、質問したり、新しいアイデアを提案したりしても、組織の誰もが自分に恥をかかせたり、罰したりしないと安心できる組織。言ってくれて、聞いてくれて、考えてくれて、「ありがとう」

ウ 教育(生活)環境と危機管理体制の整備

- 積極的な生徒指導の推進
- 安全・安心な教育(生活)環境の整備
- 健康・安全指導の徹底と食育の推進
- 防災や感染症予防への意識向上